

君とつばさ



令和8年8月1日
発行・公益財団法人 交通遺児育英会
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-1
(電話) 03(3556)1789
(HP) <https://www.kotsuiji.com>
©交通遺児育英会

2026 語学研修

高奨生、アメリカへ



米カリフォルニア州で行われる海外語学研修に参加する高校奨学生(高奨生)21人が7月18日、東京・羽田空港を出発した二写真。現地家庭にホームステイしながら語学学校へ通い、近郊で課外活動が行われる。一行は8月8日に帰国する予定。

交通遺児育英会の「語らいカフェ」が7月11日の大阪会場(大阪市)を皮切りに始まった。今年度から元奨学生の保護者も参加可能になったほか、現役奨学生の声を取り入れるため心算生も同席する。オンライン開催5年目となった「語らいカフェ」は12月までに東京、福岡、札幌、名古屋でも開催する予定。詳細は当会ホームページで。

今年度「語らいカフェ」スタート

大阪ほか全国5地区で

奨学金の返還額は8億

返還免除総額は

4年連続で増加

奨学金の返還額は8億

返還免除総額は

4年連続で増加

宮城県、北海道の「飲酒運転の根絶訴え」が7月11日の大阪会場(大阪市)を皮切りに始まった。今年度から元奨学生の保護者も参加可能になったほか、現役奨学生の声を取り入れるため心算生も同席する。オンライン開催5年目となった「語らいカフェ」は12月までに東京、福岡、札幌、名古屋でも開催する予定。詳細は当会ホームページで。

奨学生175人を新規採用

交通遺児育英会

奨学金の返還額は8億

返還免除総額は

4年連続で増加

奨学金の返還額は8億

返還免除総額は

4年連続で増加

交通遺児育英会が各地の企業・団体、学校などを対象に開催している無料出張講演の聴講者が、2014年8月の開講以来、延べ1万人を超えた。今年度第1四半期(4～6月)に全国5か所で行った講演は、1305人が聴講した。この結果、聴講者は延べ1万6277人となった。開催回数は累計123回に上る。同期間中は、企業・団体に加えて、4月に岐阜県立岐阜城北高校で生徒ら610人を対象に開かれたほか、6月には静岡県立磐田南高校でも定時制の65人が聴講するなど、教育現場で活用されるケースが目立った。

無料出張講演 聴講1万人を突破

交通遺児育英会

奨学金の返還額は8億

返還免除総額は

4年連続で増加

奨学金の返還額は8億

返還免除総額は

4年連続で増加

交通遺児育英会が各地の企業・団体、学校などを対象に開催している無料出張講演の聴講者が、2014年8月の開講以来、延べ1万人を超えた。今年度第1四半期(4～6月)に全国5か所で行った講演は、1305人が聴講した。この結果、聴講者は延べ1万6277人となった。開催回数は累計123回に上る。同期間中は、企業・団体に加えて、4月に岐阜県立岐阜城北高校で生徒ら610人を対象に開かれたほか、6月には静岡県立磐田南高校でも定時制の65人が聴講するなど、教育現場で活用されるケースが目立った。

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

交通安全推進への寄与

<

令和7年度

心塾読書感想文最優秀作品

東京・関西の心塾生が取り組む読書感想文講座の令和7年度最優秀作品に、東京寮・村上敦基さん(21)の作品がそれぞれ選ばれました。講評を添えて全文を紹介します。(学年は執筆当時。文章の一部は講師が手直ししています)

天国への郵便屋さん

東京

東京都立大3年 村上 敦基

『ボブの秋』
湯本 香樹実 著 (新潮文庫)

「私をここに置いて、帰してしまふのかい。クリスマス前の教会で十字架のキリストが主人公、千秋に問いかけた。車窓から差し込む陽光のような心地よさを感じさせる本書だった。その一方で、成長するにつれて失ってしまった大切な感性を思い出させてくれるようでもあった。

大家であるおばあさんの家においてある物が怖かった。目はまんまるの黒目で、大きな口はどちらかといえば顔の外れているようだ。おまけに頭についたフックを首に引っ掛ける構造なので、頭がコクリ、コクリと動く仕組みなのだ。そんな虎も形無しで、それからは私のおもちゃになった。

父を「くし、小学校に通えなくなった主人公に、おばあさんは死者への手紙の話をし、自分が天国にも行っていいように勧める。これがおばあさんの「手口」だったのだ。

「窓から差し込む陽光のような心地よさ、成長するにつれて失ってしまった大切な感性を思い出させてくれる一冊だった」と、次の文章で自分の虎の記憶へと上手に橋渡している。その心地よさはポプラの葉によって黄金色に染まった陽光に包まれる主人公、千秋の心地に通じる。

文章の後段で「おばあさんはこの(死者への手紙を天国へ届けるという)方法でいろんな作り話の」方法でいろんな

「底から浮上して水面で弾けやんと私のことを見ていてくれたのだ……」。子どもだから感じていた恐怖は、大人になると愛らしく思えるのだから。虎の置物のように愛らしい記憶もあるけれど、気泡

幼児記憶の気泡が
いま浮上し弾ける

「窓から差し込む陽光のような心地よさ、成長するにつれて失ってしまった大切な感性を思い出させてくれる一冊だった」と、次の文章で自分の虎の記憶へと上手に橋渡している。その心地よさはポプラの葉によって黄金色に染まった陽光に包まれる主人公、千秋の心地に通じる。

少しの勇気で変わること

関西

大阪信愛学院大3年 林 奏良

『サキの忘れ物』
津村 記久子 著 (新潮文庫)

少しの勇気で、人はそれまで思ってもいなかった出来事や自分に出会うことができる。そう強く思われる作品だった。最初は「これまでの人生で、最後まで読めた本は二冊もない」と、ふだん本を読まない千春が、アルバイト先の

喫茶店によく来ていたお客さんの忘れ物であるサキの文庫本を読み始め、それをきっかけにお客さんと話しかけて流が深まり、最終的には書店員になったのだから。

人の縁とは不思議なものだ。上手い具合に絡まっていたと思えば、いつの間にか切れていた。通る道を通るだけの人の仕事に上るだけの客。毎日いろいろな人と出会う日本、と千春は決意し……。

見舞いの友人が亡くなった後、いつも本を読んでいた千春は、用事がなくなったので喫茶店には来なくなってしまう。それでこの話は終わりの

小さな一滴の雫が、やがて大きな波紋をもたせ、広がるように、偶発的な行動が、千春の運命にまで影響したのだ。

千春の人生を動かした「少しの勇気」への賛歌。表題で端的に示した「少しの勇気」を軸に、一貫した趣旨でわかりやすく書いています。その「勇気」の力を存分に高める文になっていて、異論ありません。

「勇気」が千春の運命にまで影響したことを、「たまたま」の教訓的な結び合

「サキの忘れ物」は、千春の人生を動かした「少しの勇気」への賛歌。表題で端的に示した「少しの勇気」を軸に、一貫した趣旨でわかりやすく書いています。その「勇気」の力を存分に高める文になっていて、異論ありません。

「サキの忘れ物」は、千春の人生を動かした「少しの勇気」への賛歌。表題で端的に示した「少しの勇気」を軸に、一貫した趣旨でわかりやすく書いています。その「勇気」の力を存分に高める文になっていて、異論ありません。

出張講演を聴いて

く、被害体験を聴くという異なったアプローチで自分のこととして意識付けることができました。

慣れや一秒の気の緩みの恐ろしさを認識しました。同時に被害者、加害者双方の苦しみ伝わってききました。人は失敗しますが、交通事故は決して起こしてはならない失敗です。時間は戻ってきませんから。

被害者の家族が理不尽な思いをしていることが悲しい。

(交通事故に関して)このような現実があることをよく理解して、社内安全運転活動に生かしたい。

ハンドルを握る身として、一人一人の人生に関わっていることに改めて気付かされた時間でした。

交通事故事例の原因・対策ではな

交通事故でセロ、飲酒運転撲滅のためにこれからの仕事をしたい。

突然の事故の連絡、病院に着くまでの不安、到着してからの絶望……

本心に心が痛みました。

警察官として、部門を越えて死亡事故をなくさなければならぬと、使命感を新たにしました。

交通事故のご遺族の講演は会社や学校など社会全体で行ってほしいです。必要な講演です。

交通事故の取り扱いには毎日市川警察署様のアンケートより)

講演の申し込みを受け付けています

交通遺児育英会ではDVD等による全国無料出張講演の申し込みを受け付けています。申し込み、内容に関する詳細は当会ホームページ(https://www.kotsuiji.com)または電話(03-3556-1789)にてお問い合わせください。

交通遺児育英会ではDVD等による全国無料出張講演の申し込みを受け付けています。申し込み、内容に関する詳細は当会ホームページ(https://www.kotsuiji.com)または電話(03-3556-1789)にてお問い合わせください。

交通遺児育英会ではDVD等による全国無料出張講演の申し込みを受け付けています。申し込み、内容に関する詳細は当会ホームページ(https://www.kotsuiji.com)または電話(03-3556-1789)にてお問い合わせください。

交通遺児育英会ではDVD等による全国無料出張講演の申し込みを受け付けています。申し込み、内容に関する詳細は当会ホームページ(https://www.kotsuiji.com)または電話(03-3556-1789)にてお問い合わせください。

交通遺児育英会ではDVD等による全国無料出張講演の申し込みを受け付けています。申し込み、内容に関する詳細は当会ホームページ(https://www.kotsuiji.com)または電話(03-3556-1789)にてお問い合わせください。

交通遺児育英会ではDVD等による全国無料出張講演の申し込みを受け付けています。申し込み、内容に関する詳細は当会ホームページ(https://www.kotsuiji.com)または電話(03-3556-1789)にてお問い合わせください。

交通遺児育英会ではDVD等による全国無料出張講演の申し込みを受け付けています。申し込み、内容に関する詳細は当会ホームページ(https://www.kotsuiji.com)または電話(03-3556-1789)にてお問い合わせください。

交通遺児育英会ではDVD等による全国無料出張講演の申し込みを受け付けています。申し込み、内容に関する詳細は当会ホームページ(https://www.kotsuiji.com)または電話(03-3556-1789)にてお問い合わせください。

交通遺児育英会ではDVD等による全国無料出張講演の申し込みを受け付けています。申し込み、内容に関する詳細は当会ホームページ(https://www.kotsuiji.com)または電話(03-3556-1789)にてお問い合わせください。

交通遺児育英会ではDVD等による全国無料出張講演の申し込みを受け付けています。申し込み、内容に関する詳細は当会ホームページ(https://www.kotsuiji.com)または電話(03-3556-1789)にてお問い合わせください。

新しい出会いに視野広がる

心塾新入生入塾3か月「ひとこと」集

入塾式が終わり、一人暮らしが始まって初めて迎える夏。学校の先輩や友人、寮の仲間、寮長・寮母さん……「はじめまして」の人たちに囲まれた新たな環境で、新入塾生はどんな毎日を送っているのでしょうか。東京・関西の心塾から、それぞれの「ひとこと」を綴ってもらいました。

【敬称略、順不同】

東京 寮

多くの不安も解消 安心できる寮生活

寮生活を始める前は朝起きられるか、大学の勉強についていけるか、など不安なことが多くありました。しかし、実際に生活してみると寮の方々が声をかけてくださったので、困った時に助けてくださったりするので安心して過ごしています。

建川 耀（目白大）

入塾して感じた 大変さと楽しさ

寮生活を始めて気付いたことは、一人暮らしの大変さと楽しさです。心塾では、今まで親に任せていた洗濯や掃除を自分で行う必要があり、大変さを感じていましたが、同時に新しい生活に慣れ、実家と比べて親に頼っていたことがわかります。

藤本 旭（大東大）

さまざまな挑戦して 自分を成長させたい

大学に入って初めて一人暮らしを始めたので、最初は生活に慣れるまで大変でした。でも、今では少しずつ自分のペースがつかめてきて、一人でできることも増えてきました。

大東 郁仁（大東大）

自由に伴う責任の重さ 交流深め一歩ずつ成長

寮生活を始めて感じたことは「自由」とそれに伴う責任の重さです。とくに高校時代と大きく異なるのは、住み慣れた土地を離れ、近くに頼れる家族や友人がいない環境になったことです。

森 菜々（京大）

親のありがたさ実感 時間大切に自立生活

寮生活では、先輩方が声をかけてくださったり、ご飯に誘ってくださったりするのを見て、安心して楽しく過ごしています。

稲村 百合那（京大）

自己管理の大変さ 母に感謝伝えたい

寮生活を始めて、身の回りのことを一人でやるようになった。学校生活では自由が増え、自分で予定を管理する責任の大きさを感しました。初

鈴木 華心（京大）

関西 寮

多くの支えを実感 寮生活に思う幸せ

が、自分で時間や体調を管理する大切さを実感しています。さまざまな学校に通う方々と寮で交流できることも楽しく、自分の視野が広がっていると感じます。

河野 莉子（河野大）

早起きも大丈夫！ 通学時間が半分に

寮生活になり、一人暮らしの寮生活を始めた。好きな時間に起き、好きなことを学び、自分のペースで生活できる毎日は想像以上に楽しい。入学前は、自分のことは自分で責任を持たなければならぬことに少し不安もあったが、実際に生活してみると、自分の時間や生活を自分で組み立てていくことに小さな幸せを感じている。

島添 理子（島添大）

単身の不安も解消 看護の勉強に集中

寮生活は親任せだったので、一人分の洗濯、掃除だけでも意外と面倒くさくて時間がかかるんだと気づき、親のありがたさを感じました。

あはれ 順（あはれ大）

学業とアルバイト 両立目指して努力

入学して寮生活が始まり、入居早々さまざまな問題がありました。正直、この先どうなるのだろうと先が見えない気持ちでした。ですが自分ですべてを管理する中で、少しずつ生活に慣れてきたので、これからは楽しく寮生活を送りながら、自立できるように頑張ります。

立谷 知香（立谷大）

入寮し身についた 考えて行動する力

入寮してから初めて親元を離れて生活する大変さを感じています。最初は不安もありましたが、少しずつ生活リズムにも慣れてきました。寮生活

富田 衣舞（富田大）

勉強、部活、環境問題も 努力続ける姿勢が大切

昨年、勉強と部活の両立に取り組んだ学生だった。サッカー部では高いレベルの環境で日々練習に取り組み、思うように結果が出ず、悔しい思いをすることも多かった。

中田 樹（中田大）

友とのご飯が楽しみ 失敗恐れずに挑戦も

寮での生活は期待と不安でいっぱいでしたが、安でおいしいご飯が出ると、あたかも本音が伝わるような感じがする。毎日寮の友達とご飯を食べるのが楽しみです。

青木 千和（青木大）

高校生の 声

「経営者」になって社会を支える側に。今年は大卒受験に備えて準一級合格を目指しています。

3年 才木 奏和（才木大）

「経営者」になって 社会を支える側に

私は昨年一年間、趣味や勉強、友人関係などに全力で取り組み、楽しんできました。

風川 和季（風川大）

趣味であるストリートダンスでは、新しいジャンルを習ったり、ショーケースに立候補するなど、今までは違うことに挑戦しました。勉強面では、実用英語技能検定2級の受験にあたり、通学時間に英語を覚える、図書館で長文読解やリスニング対策などに取り組みました。その結果、無事合格することができました。

（大阪府）

恩師の背中追いかけ 体育教師目指す

はつらつ

ひらかわ ゆうと
平川 夢叶 さん

呉港高校2年（広島県呉市）

この号が出るころは、アメリカで海外語学研修の真っただ中。出発前、「日本ではできないことに挑戦してみたい」と明るく話していただけに、現地で聞かされること、体験することの全てを吸収して帰国するはずだ。

「体を動かすこと、新しいことにチャレンジするのが大好き」という平川夢叶さん（16）。小学生の時にサッカー教室に通い、初めてボールに触れた。1年ほどでやめてしまったが、中学校で再びサッカーへ。今も「恩師と呼ぶ、中学校でサッカー部の顧問を務めていた体育教師との出会いが『自分の人生が変わった』と言えるほどでした」と振り返る。

「入学当初は一番、厳しそうで怖い先生だと思った」という顧問は、「サッカー、やらんか？」と声を掛けてくれた。他の部員からの評判もいい。考えた末、当初入部していた卓球部から転部した。実際に部活を始めてみると、日ごろの挨拶など礼儀作法からサッカー技術まで、顧問自らのサッカー経験を生かした指導に感銘を受けた。

部員の考えを否定せず、思い切りのいいプレーには全力で応援、ほめてくれる。反面、悪いところはきちんとダメ出しもする。存分に部活動を楽しみ、右サイドバックとして市の大会で優勝も果たした。結果、技術面でも精神面でも「自分自身に自信が持てるようになった」という。中2の冬、生徒会長に立候補しようと思った時も、顧問は「会長になるんか。ええよ、ええよ。やってみい」と背中を押してくれた。

「恩師に出会うまでは、恥ずかしがり屋で新しいことに挑戦するのが苦手な性格で、それが生徒会長に手を挙げ、当選するまでに自分に自信がついて、学校が楽しくなりました。人前に立つことも目立つことも好きになりました」

高校は勉強、スポーツとも大切に学校の魅力を感じ、特進コースに進んだ。部活動は「新しいこと好き」の血が騒いだのか、サッカーではなくハンドボール部へ。初心者からレギュラーにまでなったが、今春からはさらに新境地を求めて陸上部に移った。

「自宅周辺をランニングしたり。走るの意外に楽しい。筋トレも欠かしません。自分を追い込んでいく感覚がいいんです。今は先輩らの指導で、2000メートル、4000メートル、走り幅跳びに挑戦中。何より体力がついて友人が増え、勉強の気分転換にもなる。部活動の効用を実感している。さらにもう一つ目標を立てている。高校でも生徒会長選挙に立候補することだ。『中学の生徒会は思ったより楽しかった。高校では思いきって校則の見直しを提案したい』

「通」 学途中のオートバイ事故で障害が残った会社員の父（38）、介護施設職員の母（38）とも「自分がやりたいことを」と、将来の進路は任せてくれている。

家では5人きょうだいを束ねる長男。中学生の弟もサッカーを始め、試合会場を訪ねると他校へ転動した恩師と再会することもある。言葉を交わすとやはりうれしい。恩師に会う度、中学時代に学んだ失敗を恐れず挑戦すること、失敗しても切り替えて前へ進むことの大切さを改めて思い返す。

恩師が教えてくれた「『まずはまず自らに向けて』」という言葉が、今も「胸に深く刺さっている」という。競技でも実生活でも、他者の責任を問う前に、まず自らの行いを振り返るべき。成功例も失敗談も、日記を書き続けているのはその表れかもしれない。



将来は大学の教育学部へ進学し、地元の中学校で恩師と同じ体育教師を目指す。「教師として、あの時の恩師と同じような存在になりたい」

「八王子市（編注※東京のある日野市の隣）にある建築設計事務所、インスターンとして通っていました」

「東京寮は初めてですか？」

「そうです。2月下旬から1か月ほど、男子棟の空いている居室を借りてお世話になりました。そこから毎朝、電車で通勤するイメージです」

「マンション住まいの感覚の関西寮と比べて、住み心地は良かったか？」

「良かったです。でも、早朝のチャイムや門限の厳しさとか、カルチャーショックもありましたね。3月にあった東京寮の卒業式に参加させてもらい、『関西寮から就活で来ている』と分かってからは、皆と親しく話せるようになりました。関西の寮では心算生は僕一人です。入居者も高校生や社会人の方が多く印象で、見知らぬ者同士で話す機会はほとんどありません。東京はにぎやかで楽しかったです」

「東京寮での生活で印象に残ったことはありますか？」

「共用棟のラウンジに皆で集まって、わいわい話するのが楽しかったです。交通事故被害者という共通点があるので、互いの話がしやすい、というか、普段、よそではあまり話せないようなことでも東京では話そうとすることができました」

「関西寮との一番の違いは話そうとすることができたこと、かもしれません」

「ほかにも一緒にバドミントンをしたり、休日に買い物に出かけたり。仲間と一緒に食堂でごはんを食べるとか、寮に帰る理由のようなものをはつきりと感じましたね」

「仲間と時間を共有できることも東京寮のよさですね」

「逆に『関西寮ってどんな感じ？』とよく聞かれました。マンションみたい、と答えていましたが、個人的には東京寮の方が合っていると感じました」



「建築にかかわることは何でも自分でやってみたい」という川向さん。「食事付きで利用料（泊1000円）も安価。交通遺児育英会の施設なら保護者の方も安心できると思います」

共有した時間と街の刺激と

心算関西寮生の東京寮「就活」滞在記

心算東京寮（東京都日野市）

は、奨学生がオープンキャンパスなど進学先の下見や就職活動で首都圏に滞在する際の拠点としても利用できる。心算関西寮生の神戸芸術工科大学芸術工学部環境デザイン学科4年、川向宇瞳さん（23）もこの春、就職活動のため上京（5月1日現在）が同じ屋根の下に集う、関西寮とはひと味違う環境で過ごした1か月を振り返ってもらった。

「就職活動のために上京されたか？」

「八王子市（編注※東京のある日野市の隣）にある建築設計事務所、インスターンとして通っていました」

「東京寮は初めてですか？」

「そうです。2月下旬から1か月ほど、男子棟の空いている居室を借りてお世話になりました。そこから毎朝、電車で通勤するイメージです」

「マンション住まいの感覚の関西寮と比べて、住み心地は良かったか？」

「良かったです。でも、早朝のチャイムや門限の厳しさとか、カルチャーショックもありましたね。3月にあった東京寮の卒業式に参加させてもらい、『関西寮から就活で来ている』と分かってからは、皆と親しく話せるようになりました。関西の寮では心算生は僕一人です。入居者も高校生や社会人の方が多く印象で、見知らぬ者同士で話す機会はほとんどありません。東京はにぎやかで楽しかったです」

「東京寮での生活で印象に残ったことはありますか？」

「共用棟のラウンジに皆で集まって、わいわい話するのが楽しかったです。交通事故被害者という共通点があるので、互いの話がしやすい、というか、普段、よそではあまり話せないようなことでも東京では話そうとすることができました」

「関西寮との一番の違いは話そうとすることができたこと、かもしれません」

「ほかにも一緒にバドミントンをしたり、休日に買い物に出かけたり。仲間と一緒に食堂でごはんを食べるとか、寮に帰る理由のようなものをはつきりと感じましたね」

「仲間と時間を共有できることも東京寮のよさですね」

「逆に『関西寮ってどんな感じ？』とよく聞かれました。マンションみたい、と答えていましたが、個人的には東京寮の方が合っていると感じました」

特別対談

～「交通事故ゼロ」の未来へ～

切れ目のない支援のために



公益財団法人 交通遺児育英会

石橋 健一 会長

いしばし・けんいち 1942年生。北海道大卒業後、日新製鋼（現日本製鉄）を経て96年、交通遺児育英会。事務局長、専務理事、理事長を歴任。2023年より現職。

交通遺児育英会 交通事故死の激増を背景に、交通遺児救済を求めた1968（昭和43）年の国会決議を受け、翌年に設立。高校、大学、専門学校生らを対象とした無利子（一部給付）の奨学金事業では、これまでに5万8千人余に総額589億円を支援。運転免許取得費や家賃の補助、受験料・各種資格試験費用補助、学生寮「心塾」運営などの修学支援体制を整える。コロナ禍では緊急支援金（最大60万円）を支給した。

自動車事故対策機構（ナスバ） 1973（昭和48）年設立の自動車事故対策センターを継いで2003年に発足。経済的・精神的支援で被害者を「支える」、安全講習により事故を「防ぐ」、車の安全性能試験など事故から「守る」の3業務を一体的に実施する。中学校卒業までを対象とした無利子貸付では3万4千人余に総額338億円を支援。重度後遺障害者への介護料支給、高度先進医療体制を備えた療護施設も全国で運営する。



独立行政法人 自動車事故対策機構

中村 晃一郎 理事長

なかむら・こういちろう 1958年生。81年、日立家電販売入社。日立製作所などを経て2010年、日立コンシューマ・マーケティング社長。17年、同製作所理事。22年より現職。

「事故ゼロ」をめざすためにナスバがある

——向団体とも、交通事故死の激増という時代が設立の背景にありました。

石橋 当会の設立は1969（昭和44）年です。当時は高度成長の陰で交通事故による死者が激増し、働き手を失ったお母さん方から「せめて我が子を高校だけは卒業させてやりたい」という声が上が

り、前年の国会決議を受ける形で設立されたのです。

中村 「交通事故」とも言われた時代ですね。そうした事態を受け、同年に交通安全対策基本法ができて、73年に当機構の前身である自動車事故対策センターができ、特殊法人改革を経てナスバが設立されたのです。

中村 「交通事故」とも言われた時代ですね。そうした事態を受け、同年に交通安全対策基本法ができて、73年に当機構の前身である自動車事故対策センターができ、特殊法人改革を経てナスバが設立されたのです。

石橋 先ほどの「心塾」も、都会での下宿生活は何かと大変、というお母さん方の要望を受けて設けられました。

中村 私たちの取り組みは大きく3つあります。被害者に対しては「支える」、事故を「防ぐ」、事故から「守る」です。

石橋 先ほど取り上げた「語らいカフェ」も、コロナ禍で「つどい」が中止された際に、少人数で集まれる場を考えて企画したものでした。今では定番行事になり、そこで出た意見が業務の改善にもつながっています。

中村 「交通事故」とも言われた時代ですね。そうした事態を受け、同年に交通安全対策基本法ができて、73年に当機構の前身である自動車事故対策センターができ、特殊法人改革を経てナスバが設立されたのです。

石橋 先ほどの「心塾」も、都会での下宿生活は何かと大変、というお母さん方の要望を受けて設けられました。

中村 私たちの取り組みは大きく3つあります。被害者に対しては「支える」、事故を「防ぐ」、事故から「守る」です。

石橋 先ほど取り上げた「語らいカフェ」も、コロナ禍で「つどい」が中止された際に、少人数で集まれる場を考えて企画したものでした。今では定番行事になり、そこで出た意見が業務の改善にもつながっています。

中村 「交通事故」とも言われた時代ですね。そうした事態を受け、同年に交通安全対策基本法ができて、73年に当機構の前身である自動車事故対策センターができ、特殊法人改革を経てナスバが設立されたのです。

石橋 先ほどの「心塾」も、都会での下宿生活は何かと大変、というお母さん方の要望を受けて設けられました。

中村 私たちの取り組みは大きく3つあります。被害者に対しては「支える」、事故を「防ぐ」、事故から「守る」です。

石橋 先ほど取り上げた「語らいカフェ」も、コロナ禍で「つどい」が中止された際に、少人数で集まれる場を考えて企画したものでした。今では定番行事になり、そこで出た意見が業務の改善にもつながっています。

中村 「交通事故」とも言われた時代ですね。そうした事態を受け、同年に交通安全対策基本法ができて、73年に当機構の前身である自動車事故対策センターができ、特殊法人改革を経てナスバが設立されたのです。

石橋 先ほどの「心塾」も、都会での下宿生活は何かと大変、というお母さん方の要望を受けて設けられました。

中村 私たちの取り組みは大きく3つあります。被害者に対しては「支える」、事故を「防ぐ」、事故から「守る」です。

石橋 先ほど取り上げた「語らいカフェ」も、コロナ禍で「つどい」が中止された際に、少人数で集まれる場を考えて企画したものでした。今では定番行事になり、そこで出た意見が業務の改善にもつながっています。

中村 「交通事故」とも言われた時代ですね。そうした事態を受け、同年に交通安全対策基本法ができて、73年に当機構の前身である自動車事故対策センターができ、特殊法人改革を経てナスバが設立されたのです。

石橋 先ほどの「心塾」も、都会での下宿生活は何かと大変、というお母さん方の要望を受けて設けられました。

中村 私たちの取り組みは大きく3つあります。被害者に対しては「支える」、事故を「防ぐ」、事故から「守る」です。

石橋 先ほど取り上げた「語らいカフェ」も、コロナ禍で「つどい」が中止された際に、少人数で集まれる場を考えて企画したものでした。今では定番行事になり、そこで出た意見が業務の改善にもつながっています。

中村 「交通事故」とも言われた時代ですね。そうした事態を受け、同年に交通安全対策基本法ができて、73年に当機構の前身である自動車事故対策センターができ、特殊法人改革を経てナスバが設立されたのです。

石橋 先ほどの「心塾」も、都会での下宿生活は何かと大変、というお母さん方の要望を受けて設けられました。

中村 私たちの取り組みは大きく3つあります。被害者に対しては「支える」、事故を「防ぐ」、事故から「守る」です。

石橋 先ほど取り上げた「語らいカフェ」も、コロナ禍で「つどい」が中止された際に、少人数で集まれる場を考えて企画したものでした。今では定番行事になり、そこで出た意見が業務の改善にもつながっています。

中村 「交通事故」とも言われた時代ですね。そうした事態を受け、同年に交通安全対策基本法ができて、73年に当機構の前身である自動車事故対策センターができ、特殊法人改革を経てナスバが設立されたのです。

石橋 先ほどの「心塾」も、都会での下宿生活は何かと大変、というお母さん方の要望を受けて設けられました。

中村 私たちの取り組みは大きく3つあります。被害者に対しては「支える」、事故を「防ぐ」、事故から「守る」です。

石橋 先ほど取り上げた「語らいカフェ」も、コロナ禍で「つどい」が中止された際に、少人数で集まれる場を考えて企画したものでした。今では定番行事になり、そこで出た意見が業務の改善にもつながっています。

中村 「交通事故」とも言われた時代ですね。そうした事態を受け、同年に交通安全対策基本法ができて、73年に当機構の前身である自動車事故対策センターができ、特殊法人改革を経てナスバが設立されたのです。

石橋 先ほどの「心塾」も、都会での下宿生活は何かと大変、というお母さん方の要望を受けて設けられました。

中村 私たちの取り組みは大きく3つあります。被害者に対しては「支える」、事故を「防ぐ」、事故から「守る」です。

石橋 先ほど取り上げた「語らいカフェ」も、コロナ禍で「つどい」が中止された際に、少人数で集まれる場を考えて企画したものでした。今では定番行事になり、そこで出た意見が業務の改善にもつながっています。

中村 「交通事故」とも言われた時代ですね。そうした事態を受け、同年に交通安全対策基本法ができて、73年に当機構の前身である自動車事故対策センターができ、特殊法人改革を経てナスバが設立されたのです。

石橋 先ほどの「心塾」も、都会での下宿生活は何かと大変、というお母さん方の要望を受けて設けられました。

中村 私たちの取り組みは大きく3つあります。被害者に対しては「支える」、事故を「防ぐ」、事故から「守る」です。

石橋 先ほど取り上げた「語らいカフェ」も、コロナ禍で「つどい」が中止された際に、少人数で集まれる場を考えて企画したものでした。今では定番行事になり、そこで出た意見が業務の改善にもつながっています。

中村 「交通事故」とも言われた時代ですね。そうした事態を受け、同年に交通安全対策基本法ができて、73年に当機構の前身である自動車事故対策センターができ、特殊法人改革を経てナスバが設立されたのです。

石橋 先ほどの「心塾」も、都会での下宿生活は何かと大変、というお母さん方の要望を受けて設けられました。

中村 私たちの取り組みは大きく3つあります。被害者に対しては「支える」、事故を「防ぐ」、事故から「守る」です。

石橋 先ほど取り上げた「語らいカフェ」も、コロナ禍で「つどい」が中止された際に、少人数で集まれる場を考えて企画したものでした。今では定番行事になり、そこで出た意見が業務の改善にもつながっています。

中村 「交通事故」とも言われた時代ですね。そうした事態を受け、同年に交通安全対策基本法ができて、73年に当機構の前身である自動車事故対策センターができ、特殊法人改革を経てナスバが設立されたのです。

石橋 先ほどの「心塾」も、都会での下宿生活は何かと大変、というお母さん方の要望を受けて設けられました。

中村 私たちの取り組みは大きく3つあります。被害者に対しては「支える」、事故を「防ぐ」、事故から「守る」です。

石橋 先ほど取り上げた「語らいカフェ」も、コロナ禍で「つどい」が中止された際に、少人数で集まれる場を考えて企画したものでした。今では定番行事になり、そこで出た意見が業務の改善にもつながっています。

中村 「交通事故」とも言われた時代ですね。そうした事態を受け、同年に交通安全対策基本法ができて、73年に当機構の前身である自動車事故対策センターができ、特殊法人改革を経てナスバが設立されたのです。

石橋 先ほどの「心塾」も、都会での下宿生活は何かと大変、というお母さん方の要望を受けて設けられました。

中村 私たちの取り組みは大きく3つあります。被害者に対しては「支える」、事故を「防ぐ」、事故から「守る」です。

石橋 先ほど取り上げた「語らいカフェ」も、コロナ禍で「つどい」が中止された際に、少人数で集まれる場を考えて企画したものでした。今では定番行事になり、そこで出た意見が業務の改善にもつながっています。

中村 「交通事故」とも言われた時代ですね。そうした事態を受け、同年に交通安全対策基本法ができて、73年に当機構の前身である自動車事故対策センターができ、特殊法人改革を経てナスバが設立されたのです。

石橋 先ほどの「心塾」も、都会での下宿生活は何かと大変、というお母さん方の要望を受けて設けられました。

中村 私たちの取り組みは大きく3つあります。被害者に対しては「支える」、事故を「防ぐ」、事故から「守る」です。

石橋 先ほど取り上げた「語らいカフェ」も、コロナ禍で「つどい」が中止された際に、少人数で集まれる場を考えて企画したものでした。今では定番行事になり、そこで出た意見が業務の改善にもつながっています。

鉄の塊を動かすおそれ「初心忘るべからず」

「高校奨学生と保護者のつどい」

中村 障害のある方を在宅介護されるご家庭も多く、介

護料の支給をはじめ、お子さんが中学を卒業するまでの無利子貸付制度、全国50か所の支所職員がご自宅を訪問して必要な情報などを提供する仕組みがあります。重度の後遺障害（遷延性意識障害）専門の療護施設も全国12か所あり、3年程度の入院加療が可能です。交通遺児家庭をつなぐ「友の会」での行事、介護料の受給家庭を対象とした「交流会」の開催など、孤立感の解消も大事な役割です。

中村 高齢社会が進み、深刻な問題として認識しているのは（被害者である）子を介する親の問題です。「自分たちが亡くなった後、我が子はどうなるのか」という不安を抱える親は多い。交通事故に限りませんが、ナスバとして何ができるのか、議論が必要と考えています。

中村 活動を広く知ってもらうための広報も課題ですね。石橋 4年前に広報課を設け、地方紙での対談企画を続けています。当会の支援を必要とする方、社会貢献に寄与したい方に届けたい。同時にこれからは、社会に出てからの返還負担の軽減に注力したいと考えています。こうした活動も広くお知らせしたい。中村 被害者側から支援を求めようためにはナスバという団体を知っていただくことが不可欠です。不幸にも事故に遭われた方に、「そういえば……」と思い出してもらえるようにしたい。ご存じない方のためにも、警察、医療機関、自治体などと連携を密にすべく力を入れています。被害者の声を原動力に、何をなすべきかを考えることをこれからも大事にしたいと思っています。

宮城県警から感謝状

～みやぎ交通死亡事故ゼロキャンペーンに協賛



宮城県、県警、河北新報社が連携して展開する「みやぎ交通死亡事故ゼロキャンペーン」への協賛活動に対し、県警の仙洞田守交通部長＝写真＝から石橋健一会長に感謝状が贈られた。懇談では交通環境の変化に触れながら、「交通事故はヒューマンエラー。1秒タイミングがずれていれば起きなかったような事故もある」（仙洞田部長）、「運転に慣れすぎてしまうことが怖い。初心を忘れないようにしたい」（石橋会長）などと事故防止に向けて意見を交わした。

- 交通遺児育英会の連絡先（平日9:00～17:30）
- ▽奨学金貸与について 0120-521286
 - ▽返還・猶予・免除について 0120-521287
 - ▽成績相談・つどい・語学研修 0120-521295
 - ▽募金・寄付について 0120-521285
 - ▽心塾入寮申し込みについて 0120-355619

前述の②という政令で定める者とは、児童及び幼児、70歳以上の者、身体障害者福祉法別表に定める障害を有する者を指し、③の場合の例として、道路工事や連続した駐車車両等により車道の左側を通行することが困難な場合や、車の交通量が非常に多く、かつ車道の幅が狭いなどのため、追い越し車両との接触の危険がある時などを指すこととされています。

これらを前提として今回の事故について自転車歩行者の過失割合を検討すると、先述の例外に当たらず、相対者の自転車歩行者が歩道を通行することができない場合、歩行者は自転車に注意を払う義務を負っていないため、原則として歩行者に過失はなく、自転車歩行者が歩道を通行できた場合はどうでしょうか。

この場合でも、自転車歩行者は歩道の中央から車道寄りの部分（自転車通行指定部分）を通行している場合は、歩行者の過失割合は、歩行者が歩道を通行できた場合とは異なります。

それでは、例外的に自転車歩行者が歩道を通行できた場合はどうでしょうか。

この場合でも、自転車歩行者は歩道の中央から車道寄りの部分（自転車通行指定部分）を通行している場合は、歩行者の過失割合は、歩行者が歩道を通行できた場合とは異なります。

日弁連交通事故相談センター無料相談ダイヤル

0120-0783-25

月～金（祝日除く）10時～19時（相談・通話無料、10分程度）

ホームページ <https://n-tacc.or.jp/>

【5月】

皆さんを応援している人がいることを忘れないでください。

（愛知県O・Kさん）

私もお世話になりました。皆さんのおかげに立ってらっしゃいます。

（神奈川県F・Wさん）

バイク運転中に事故になりそうになり、ヒヤッとしてしまいました。少しでも事故が減るよう気をつけたいと思います。

（愛知県F・Nさん）

【6月】

値上がり、値上がりで大変だと思えます。わずかに代わり、子どもたちへの思いが、少しでも減る世の中になっ

【7月】

宮城県石巻市の梅林に「梅の取り放題」を企画された主催者の方から「入園料全額を交通遺児のために使ってほしい」と、石巻地区交通安全協会を通じて当会にご寄付がありました。ありがとうございます。

（東京都I・Tさん）

宮城県石巻市の梅林に「梅の取り放題」を企画された主催者の方から「入園料全額を交通遺児のために使ってほしい」と、石巻地区交通安全協会を通じて当会にご寄付がありました。ありがとうございます。

（東京都I・Tさん）

宮城県石巻市の梅林に「梅の取り放題」を企画された主催者の方から「入園料全額を交通遺児のために使ってほしい」と、石巻地区交通安全協会を通じて当会にご寄付がありました。ありがとうございます。

あしながおじさんの広場

お便り

旭モーターズ様は「お車をお預かりすること、お客様の心を預かりすること」という理念のもと、地域の皆様の安心・安全なカーライフを愛知県内で支えられています。

（東京都N・Tさん）

旭モーターズ様は「お車をお預かりすること、お客様の心を預かりすること」という理念のもと、地域の皆様の安心・安全なカーライフを愛知県内で支えられています。

（東京都N・Tさん）

教えて！交通事故Q&A

（公財）日弁連交通事故相談センター 22

Q 自転車歩行者の追突し、けがをさせてしまいました。被害者は「自転車歩行者は歩道を通行できないのだから、自転車に100%過失がある」と言っています。本当でしょうか。（広島県・17歳男性）

A 道路交通法上、難な場合や、車の交通量が非常に多く、かつ車道の幅が狭いなどのため、追い越し車両との接触の危険がある時などを指すこととされています。

自転車歩行者が歩道上で起こした事故の責任

道路交通法上、難な場合や、車の交通量が非常に多く、かつ車道の幅が狭いなどのため、追い越し車両との接触の危険がある時などを指すこととされています。

交通遺児 奨学生募集

ハンドルの重みは命の重み

高校・専修学校・各種学校 大学・大学院

〈保護者の重い後遺障害も対象です〉

東京都と関西に大学生・専門学校生の学生寮あり

公益財団法人 交通遺児育英会

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-1 平河町ビル3階
☎ 03-3556-0773 ☎ 0120-521286
<https://www.kotsuiji.com/>